

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2790900134		
法人名	社会福祉法人 春樹会		
事業所名	グループホーム今城の丘		
所在地	大阪府高槻市郡家本町12番24号		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年11月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

田園やテニスコート周辺を数名づつ順番に散歩へ出かけたり、ホーム内では体操等を行うことで下肢筋力の維持・向上に努めています。ホーム内でのイベントとして運動会・クリスマス会・誕生日会・敬老会で縁日風にスーパーボールすくいやヨーヨーつり等、出店でかき氷やたこ焼き等のイベントや、毎月実施しているおやつレクや喫茶にも力を入れています。運動会や敬老会、クリスマス会では職員が劇やダンス等の出しものを考え業務の合間に練習し、入居者様に披露させていただいています。今年度、法人主催の夏祭りが4年ぶりに開催されるようになり、家族様と過ごしていただける機会も増えてきました。日常生活面では、一人ひとりその人らしい日々を過ごしていただけるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営法人の社会福祉法人春樹会は、グループホームをはじめ特別養護老人ホーム(特養)・小規模特養・ケアハウスなどの高齢者施設を、同市内に多数展開している。当事業所は地域との関りを大切にし、コロナ禍でもできるだけ近隣の散歩を欠かさず、近所の人とも気軽に挨拶を交わし、畑でできた野菜や花をもらえるような関係ができています。久しぶりに開催された祭りには、沢山の近隣の人や利用者・家族が参加し、楽しい時間を過ごすことができた。事業所の優れている点として、職員の離職率が少ないこと、排泄に熱心に取り組んでいることがあげられる。開設以来従事している職員や、パートから正職員になった人など、職場や人間関係が良いと職員から伺った。夜間もできるだけオムツを使用せず、布パンツまたはリハビリパンツで過ごせる工夫を皆で話し合っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型として、当施設独自の理念を作成し、玄関とホームの目につきやすい場所に掲示している。理念に沿った介護が実践出来るよう、職員会議を通して共有している。	「寄り添うケアで、その人らしい生活を支援します。個人を大切に介護に努め、生き生きとした生活作りに取り組みます。地域に開かれた施設及び、サービスの提供に努めます」の事業所の理念を職員皆で決め、玄関や目に付く場所に掲示している。申し送りや時や会議の場で、理念が共有・実践されているかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの受け入れは、コロナの収束がみられない為中止している。散歩に出た際に近隣の方への挨拶の慣行で交流を図っている。また今年度から、規模を縮小した法人主催の夏祭りが開催され、家族とともに参加され地域の方との交流を図れるよう努めている。	自治会に加入していないが、地域で開催されるイベントへのお誘いや、法人が主催する餅つき大会には地域の人達が手伝いに来てくれるなど、良好な関係が構築されている。散歩の時には挨拶を交わし、畑でできた野菜や花をもらって帰ることもある。	コロナ禍で、ボランティアの人の受け入れや子どもと触れ合うことができなかった。高齢者は子ども達が遊ぶ姿を見たり話したりすることを喜ぶので、徐々にボランティアの受け入れを再開したり、子ども達との交流の機会を持つことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてホームの事例等から、地域の方や家族様と認知症ケアについて話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが5類感染症に移行され、中止にしていた運営推進会議を再開している。その際、ホームでの状況報告や情報交換を行っている。	偶数月の第4月曜日に会議を開催し、家族・地域包括支援センター職員・第三者委員・民生委員が参加して、運営報告やサービス向上について情報交換をしている。家族から、事故報告書への介護度の記載や訪問理容の支払いについての提案があり、改善したり他の解決策が無いかを模索している。議事録は全家族と参加者に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高槻市の担当者や、地域包括センター、社会福祉協議会とは、その都度、相談しながら協働関係を図っている。	地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に参加している。市役所とは、介護保険の更新や書類の提出、分からないことを教えてもらうなど、関わることは多い。受診に同行できない家族から相談を受け、付き添いサービスがないか社会福祉協議会に相談してボランティアを紹介してもらうなど、関係機関との協力関係はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは、原則身体拘束は行わない事を明示している。日中は玄関の施錠はせず、天候の良い日は可能な限り屋外へ散歩に出かけている。 職員会議では定期的に研修を行い身体拘束について理解を深めている。また、不参加者にも資料を配布し研修報告書を提出してもらっている。	身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催し、指針の整備や研修も実施している。身体拘束や言葉の抑制、不適切なケアが無いようできるだけ戸外に出掛け、閉塞感が無く、職員配置も手厚く、利用者だけではなく職員もゆったりした気分で過ごしている。今年度から、身体拘束適正化委員会と同日に虐待防止委員会も開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、高齢者虐待について理解を深め、日頃の声かけ等の接し方でも虐待に繋がる事があると、全職員が常に意識するように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では、制度活用の実績はないが、必要に応じて随時研修を行う予定にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には、契約時や改訂があった場合には、納得して頂けるまで分かり易く丁寧に説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在まで投書はないが、意見箱と用紙を受付に設置している。 日頃から何でも話して頂ける雰囲気づくりを心掛けている為、要望は来設時に直接口頭で頂けている。	家族とは常にコミュニケーションを取るようになっているので、何か意見や要望がある時には直接伝えてもらっている。コロナ禍で面会ができなかった時には、毎月の便り以外に個人毎に写真で様子を伝えた。メールやラインを利用したいと言う家族からの意見に対し、ルールを決め利用できるよう現在調整している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催し、各職員と行事や業務、支援についての問題点など話し合っている。 また会議以外でも職員が相談しやすい雰囲気を作るよう心掛けている。	月1回の職員会議と朝夕の申し送り時に、ケアや業務について意見を聞くようにしている。 管理者は必要に応じて職員の個人面談を実施し、相談し易い環境を作るようにしている。 職員がやりがいを持って仕事ができるよう、休みや有給休暇を取得し易いよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社労士と顧問契約を行い、人事制度の見直しに取り組んでいる。常勤・非常勤職員の意見を聴き取り、より働き甲斐のある職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が介護の質を向上していけるように役職や経験年数等も考慮し個々に応じた研修を可能な限り受講できるようにしている。内部では会議で意見交換を行ったり都度必要な研修を全職員に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や外部研修(オンライン含む)などに参加し、交流する機会を設けている。 また、外部研修を受けた者が内部研修を行い、情報の共有を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は特に環境に慣れてもらえるよう、世間話を交え本人が話しやすい雰囲気を作ることを心掛けている。本人から希望、要望等を聴き取り、前任のケアマネジャーからも意見、助言等を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や要望、懸念されている事等の聞き取りを行うよう努めている。また、本人と家族の希望に相違がある時は家族と一緒に考えることで、信頼関係の構築にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、家族から本人の状況や要望の聞き取りを行い、優先順位や必要性を見極め可能な限り対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介助を行うだけでなく、本人の話を傾聴する時間を持ち、入居者と家族のように深く関わることで、入居者が安心した生活を送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本来面会の際には、ゆっくりと居室で過ごしてもらっていた。また本人の状況等の連絡は面会時や電話・お便りで伝えるよう継続している。現在もコロナの収束はみられないが、面会や外出方法を少しずつ緩和している。電話、お便りに加え、各入居者の日々の様子を撮影した写真を家族に送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限していた面会・外出等を緩和していることで、家族や親戚、近隣の方と交流できる機会が増えてきた。散歩は変わらず、継続している。	家族以外の人との関係は途切れてきているが、利用者同士や職員との新たな関係ができていく。編み物の好きな利用者が毛糸で玉入れのネットを編んでくれたり、料理の本を見るのが好きな利用者は家族が本を持ってきてくれたり、昔からの趣味が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮や、職員が間に入り橋渡しをしたりと関係づくりの構築の支援を行っている。日中は殆どの入居者がフロアで過ごされており、良い関係作りができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も現状把握の為、電話にて対応し相談にのることもある。また、退所された方の家族からの手紙は職員間で回覧している。退所後も、前を通りかかった際、事務所にお声掛け下さる方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の意向の把握に努め、入居者を中心としたケアをミーティングや申し送りで話し合い、検討している。また、本人との会話の中で得た生活歴等の情報は職員間で共有している。	職員と一緒に掃除をしたり、趣味の編み物・繕い物や季節毎の壁紙作りをするなど、利用者は自分のしたいことやできることをして過ごしている。家族が持ってきた料理の本を見て「こんなお菓子を食いたい」と希望があり、レシピ通りに作って提供したり、散歩に行くと花をもらい花瓶に生けるなど、日常の会話の中から意向を把握し実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や前任のケアマネジャーに情報提供を依頼し、これまでの本人の情報の把握に努めている。また、日々の関わりの中でも、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや申し送りの中で、個々の心身の変化についての意見を出し合い、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の変化、家族の要望、医師からの助言等をミーティングで話し合い、集約して介護計画を作成している。半年ごとに介護計画を見直しているが、入居者に変化が生じた場合は随時見直しを行っている。	長期目標を1年、短期目標を6か月で設定し、モニタリングは3か月毎に行っている。介護計画は、事業所でどのように生活したいか本人・家族の意向を確認し、医師や職員の意見を参考にして作成する。状態に変化が生じた時には随時見直し、現状に即した計画を作成している。計画作成会議には家族も参加し、サービス開始までに同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや申し送り時に、生活記録等で入居者の情報を共有し職員全員で介護計画を見直し、意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から希望、要望を聴き取り、それに沿った柔軟な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で回数は減ったが地域ケア会議等に参加し、地域の情報を集めたり、民生委員、社会福祉協議会と連携し、必要に応じて地域資源を活用するよう心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人や家族の希望を尊重し、これまでのかかりつけ医を継続している。事業所の協力医療機関を受診する場合は、本人や家族の同意を得て受診するようになっている。	従来の内科医の訪問診療を週1回受けている利用者1名以外は、協力医の内科訪問診療を2週に1回受けている。希望者は歯科医・歯科衛生士の訪問診療を週1回～月1回受け、訪問マッサージを週5回受ける人もいる。他の専門科は家族が同行して受診し、文書か電話で利用者の状況を伝え、文書か口頭で受診結果の報告を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍していない為、近隣の同法人に所属する看護師に相談ができるよう連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際は、定期的に家族と連絡を取り関わりが切れないようにしている。また、病院関係者や家族と情報を共有し、退院前のカンファレンスが行われる際には参加するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での対応可能な範囲を説明し、重度化・終末期に向けた対応方針を書面化した指針と同意書を交わしている。また、本人、家族の状況や意向を確認しながら、事業所として最善の支援ができるよう、各主治医と当事業所間で意見交換を行っている。	入居時に、重度化対応と看取りに関する指針を利用者・家族に説明して同意書を得ている。緊急時対応と延命治療の各同意書も取っている。事業所は医療連携体制が未整備なため看取りを行わない方針で、利用者が重度化した時は延命治療の同意書を再度取り、特別養護老人ホーム(特養)や病院に移送している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、緊急対応時は的確に行動できるよう努めている。また、緊急時のマニュアルを職員から見やすい場所に掲示し、緊急時持ち出し用のファイルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を定め消防計画を作成し、年2回の避難訓練を実施している。法人統一の災害マニュアルで定期的に行っている。災害時、数日間は暮せるように備蓄食を備えている。現在、業務継続計画作成中で防災訓練も計画している。	防災と災害対応の各種マニュアルを整備し、消防署立会いと夜間想定を含め、利用者も参加して年2回避難訓練を実施し、同時に地震時の行動を確認している。職員6名程が近くに住み、夜間でも直ぐに駆け付けられ、近隣に系列施設が幾つもあり、特養は福祉避難所であるのも心強い。水・食料の備蓄は、現在の2日分を3日分に増やす予定である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員入職時に個人情報保護に関する契約書を交わしている。プライバシー保護に関する研修も定期的に行い、入居者の尊厳を守るよう声かけにも注意し対応している。	プライバシー保護・接遇のマニュアルを作成し、夫々職員研修を行い周知している。特に排泄時・入浴時・入室時の対応や言葉遣いに気を付け、不適切な対応があれば職員同士が注意し合ったり、会議や研修で取り上げ是正している。運営推進会議では、個人情報に関する資料は回収し、他に漏らさないようメンバーに要請している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望だけではなく、家族の意見も考慮し、ご本人が望む形での支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の体調・心身状況を勘案し、本人のペースに合わせて本人の希望に沿った柔軟な支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者にはご自身でその日に着る服を選んでいただき、身だしなみを整え、自分らしい身なりで生活出来るよう支援している。本人・家族の希望があれば随時、訪問理美容も依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、入居者の体調や義歯の具合等に応じた形態で提供し月に一度給食委員会でメニュー等話し合い、入居者の希望を取り入れている。 月に一度、茶話会の開催やおやつレクを計画し、個々に合ったできる作業を一緒に行いおやつ作りを行っている。	朝食は夜勤者が用意し、昼食・夕食は向かいの系列ケアハウスで調理した料理を利用者と共に搬入して事業所で温め、炊飯し提供している。毎月違うおやつを手作りし、月1回の喫茶イベントで飲み物と様々なおやつを楽しんでいる。近隣住民の差し入れのジャガイモでコロケを作ったこともある。利用者は盛付・台拭き・食器洗いなどを積極的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニュー作成、食事形態のアドバイスを受けている。 また、食事摂取量、水分摂取量を食事チェック表に記録し摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者に口腔ケアを促し、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録することで、職員は入居者の排泄パターンを概ね把握している。必要な入居者には声掛け、誘導、見守りをする事で全員がおむつを使用せずトイレで排泄できている。	おむつ使用者はおらず、利用者個々のパターンやサイン(ソワソワする、立ち上がろうとする、突然立ち上がって走り出す)を把握し、全員がトイレで排泄するよう支援している。できる限り布パンツを推奨し、日中失禁する人はほとんど居ない。夜失禁が無い時の職員のノウハウを他の職員と共有している。パッドが汚れていなければ止めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や家族と連携を取りながら、飲食の工夫や服薬管理を行っている。 排便の確認が取りづらい入居者は往診時、触診してもらい医師と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に合わせて、時間をずらす等の対応で無理強いすることなく入浴していただいている。入浴は職員とマンツーマンなので日頃は口数の少ない入居者も入浴中の会話を楽しんでいる。また、冬至には柚子風呂も行っている。	週2回午前の入浴を基本とし、嫌がる利用者は無理強いせず、時間や人を替えたり声掛けを工夫し、職員と一緒に服を脱いで促すこともある。2方向介助ができる浴槽だが、全員が一人で入浴できる。柚子湯で季節を感じ、職員との会話を楽しんでいる。脱衣場にはエアコンがあり、ヒートショックを防いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や本人の生活リズムを尊重し、時間に拘った生活にならないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに現在服用している薬の説明書を管理し、目的や副作用、用法・用量等をすぐに確認できるようにファイリングしている。本人の状態に変化があれば家族に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を把握しレクリエーションを実施している。また、毎月の行事カレンダーをそれぞれご自身で作成し、居室に飾ることを楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人から行きたい場所等を聞いた時は、家族に伝えている。日常的には近所の神社や花を見に散歩に出かけている。	好天の日に利用者は可能な限り戸外に出掛け、周辺や近くの神社・系列施設まで散歩し、季節の花(コスモス・ヒマワリ・桜など)を楽しんでいる。車椅子の人でもできる所まで歩いている。向かいのケアハウスから料理を搬入する時や、窓辺・玄関前で外気に当たっている。家族との2時間までの外出・外食を再開し、病院・食事・自宅・神社などへ出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持出来る方が現在のところいない。また、当事業所での管理も行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使える入居者は自身の携帯電話で家族と自由に連絡をとっていただいている。携帯電話が使えない入居者でも家族と話したい等要望があれば、事業所の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓は季節ごとに飾りつけをしている。トイレや浴室はこまめに掃除し清潔を保ち、使用するたびに消毒も行っている。天候や入居者の体調に合わせて室温もこまめに調整している。	居間兼食堂は西・北面が窓で明るくゆったりしとしている。食事時は卓上に「コ」型のアクリル板を置き感染予防をしている。夏の陽射しの暑さ・眩しさを防ぐためロールカーテンを設置し、季節毎にテーブル(窓からの距離)やテレビ(反射防止)の位置を替えている。壁面には共作の季節飾りや行事写真を掲示し、季節感・生活感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で休んでいただいたり、リビングで気の合う方と会話を楽しめるように座席等、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には表札以外に、入居者の名前と写真を掲げている。必要な物や好みの物は家族と相談し居心地のいい環境作りに努めている。	居室入口に利用者氏名と写真を掲示して分かり易くし、室内にはベッド・クローゼット・エアコン・ロールカーテン・小タンス机セット・椅子・テレビ・換気扇(終日稼働)を設置している。利用者は衣装ケース・ラックなどを自由に持ち込み、居心地良い空間を創っている。ドア上部にストッパーを付け、ベッドの足場に滑り止めマットを設置し安全を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線を意識して環境整備をし、見守りにて事故なく安全に移動できるよう配慮している。		